

いなほ学級（第4学年）生活単元学習指導案

日時 平成26年5月14日（水）第2校時

場所 いなほ教室

指導者 教諭 渡邊 陽一

1 単元名 野菜を育てよう Part 1

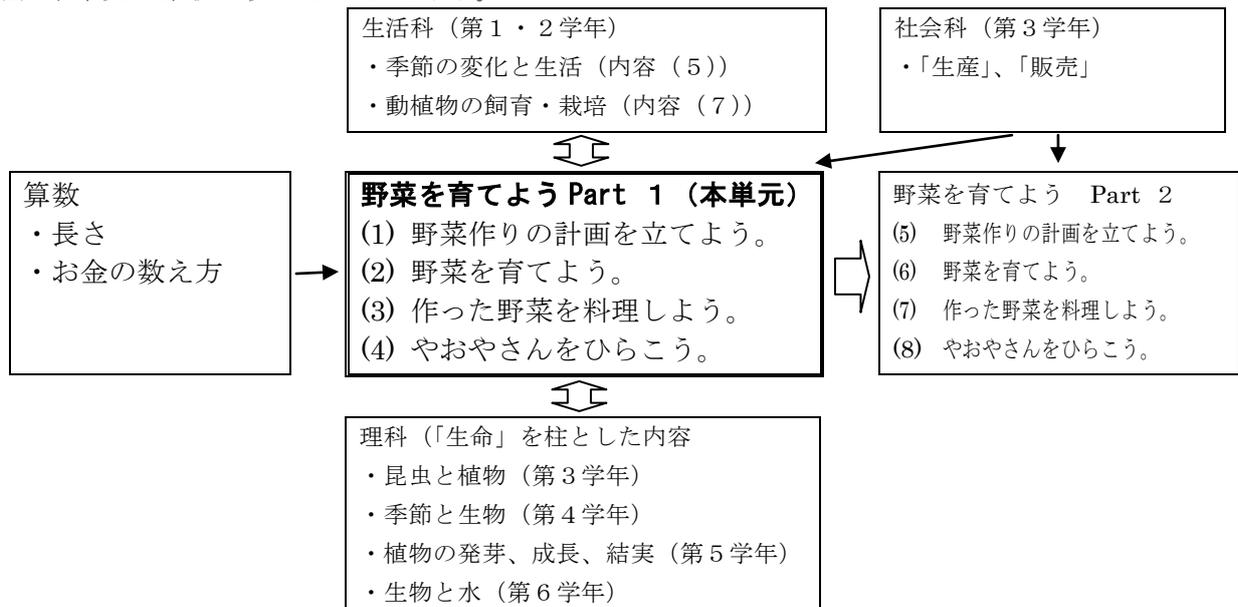
2 単元について

- (1) 本校は周囲を自然や田畑に囲まれている環境にあり、農業を営まれている家庭もたくさんおられる。本校児童も1年生の時から花や野菜などを育てる体験をしている。本学級児童の保護者も農業を営んでおられる。

そこで本単元では、子どもたちにとって身近である野菜を栽培する活動を通してその成長や変化に気づき関心を持つこと、植物の成長の大まかな流れを理解することをねらいとしている。また、収穫した野菜を自ら調理し消費したり、販売したりする活動を通してそれらが人間の生活の中で消費されることも理解させたい。

これは、第1・2学年生活科の内容（5）季節の変化と生活及び、（7）動植物の飼育・栽培との関連が大きい。また3～6学年の理科では、「生命」を柱とした内容との関連が大きい。また、社会科においては、第3学年で学習する「生産」、「販売」と関連する。

- (2) 本単元の系統は次のとおりである。



- (3) 本単元にかかわる児童の実態は次のとおりである。(男子児童1名 (S)、女子児童1名 (A))

本学級の2名S、Aはどちらも家業で農業を営まれており、野菜を作ることに興味をもちたいへん興味を持っている。今までの活動（畑作り、苗うえ、水かけ、草取り等）にも意欲的に取り組む姿が見られる。

2名とも第3学年時から交流学习で理科の学習をしており、植物のからだのつくりや実の付き方については学習している。

Sは、3年時に海外のインターナショナルスクールから転入してきたこともあり、だい1・2学年時に学習する生活科の学習が不十分である。生活経験から野菜が植物からとれることは理解しているが、野菜がどのように植物体についてイルカまでは理解が進んでいない。

Aは、実の付き方、イモの付き方についてはだいたい理解できているが、第3学年時に学習し

た、「花のあとに実ができること」までは十分に理解できていない。

3 仮説にせまる授業での取組

(1) 課題設定の工夫（仮説①）

○本時の導入において、現在栽培している野菜の植物体と野菜を一致させる活動をすることから、野菜のつき方への疑問を持たせる。

(2) 自分の考えを持ち、表現できる手立ての工夫（仮説②）

○児童それぞれに予想させるための教材を持たせ、自由に考えさせ、視覚的に表現させることで、発表のための手段とする。

(3) 身近な自然や生活で、理科を実感させる工夫（仮説③）

○自分たちで栽培している野菜だけでなく、家庭や他の学級が栽培している植物、自然に生えている植物にも目を向けさせ、観察で得た知識を深化させていく。

4 単元の目標

(S) …○野菜作りに興味を持ち、意欲的に活動に取り組もうとする。

○野菜作りに必要なものは何かを考えながら活動しようとする。

○ものの数を数えたり、簡単なお金の計算ができる。

○栽培活動を通して、必要な道具や材料を選んで使うことができる。

○植物の育ち方の大まかな流れを理解することができる。

(A) …○野菜作りに興味を持ち、意欲的に活動に取り組もうとする。

○野菜作りに必要なものやどのようなことをしなければならないかを考えながら活動しようとする。

○ものの数を数えたり、簡単なお金の計算ができる。

○栽培活動を通して、必要な道具や材料を選んで使うことができる。

○植物の育ち方の大まかな流れを理解することができる。

5 指導計画及び評価基準

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価基準
1	1	野菜作りの計画を立てよう。	・児童が栽培したいものの中から栽培可能なものを選び、計画を立てさせる。	【関心】 自分たちが育てたい野菜を出し合っている。
2	1	野菜を育てよう。 (1) 畑を作ろう。	・畑を作るための行程や使う道具を考えさせながら活動する。	【技能】 鍬やスコップを使って畑を耕し、肥料を入れて畑を作っている。
	2	(2) 野菜の苗を植えよう。	・苗を大切に扱い、命を育てていくことを考えさせる。	【思考】 野菜を植えるときに注意することを考えながらうえている。
	3	(3) 野菜のお世話をしよう。	・野菜が大きくなるためにはどんなことをしなければならないかを具体的に考えさせ、継続的に活動させるようにする。	【思考】 野菜を育てるために必要な水かけや草取りなどを考えて活動している。
	4	(4) 大きくなる様子を調べよう。	・うえたときと変わったところを葉の数や背丈など具体的な視点を持たせ、観察させる。	【思考】 植えたときに比べ、葉の数が増え、背丈が高くなっていることがわかっている。

5 (本時)	5	(5) 野菜はどこにできるのかな。	・育てている植物を観察させることで、植物の種類による野菜のでき方の違いに気づかせる。	【知識】 植物の種類による野菜の付き方の違いを理解している。
	6	(6) 野菜を収穫しよう。	・自分たちで作った野菜が育ち、収穫できるようになったことを実感させる。	【関心】 自分たちが育てた野菜を、意欲的に収穫している。
3	1	サラダをつくろう。 (1) サラダ作りの計画を立てよう。	・サラダ作りの計画を立てさせ、個々の役割を決めさせる。	【関心】 意欲を持って、計画を立てている。
	2	(2) サラダをつくろう。	・計画に従って、調理を進める。	【技能】 自分が受け持った役割を果たしている。
4	1	やおやさんをひらこう。 (1) 八百屋さんの計画を立てよう。	・家業と関連させ、「生産」、「販売」について理解させる。	【関心】 意欲を持って、計画を立てている。
	2	(2) 八百屋さんの準備をしよう。	・販売する野菜の数や、重さをそろえ、準備をさせる。	【技能】 一定の数や重さで野菜を袋に入れ、販売する用意ができています。
	3	(3) やおやさんになろう。	・計算しやすい値段をつけ、自分たちで販売できるようにする。	【技能】 値段に合わせて、野菜の販売ができています。

6 本時の学習

(1) 目標

(S) …野菜（植物）を観察し、植物体のどこに野菜がつくのかを調べることができる。【知識・理解】

(A) …野菜（植物）を観察し、野菜の実の付き方の違いを比べることができる。【知識・理解】

(2) 展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点・評価	備 考
導入 (10分)	1. 自分たちで植えた野菜をふりかえる。 (1) どんな野菜を植えたかを挙げる。 ・トマト ・キュウリ ・ジャガイモ ・ナス (2) それぞれの野菜がどんな形をしていたか考える。	・ 果実のイラストと植物体のイラストを用い、どの植物体にどの果実がなるのかを考えさせるようにする。	イラストカード
展開 (30分)	2. 本時の学習問題をつかむ。 野菜は、どこにできるのかな？ 3. トマトの観察をする。 (1) トマトのどこに実がなるのかを考える。 (2) ジャガイモの実(いもの部分)がどこにつくか予想する。 (3) 観察園に行き、トマトやジャガイモがどこにできるのかを確かめる。	・ 課題を声を出して読み、確認させる。 ・ イラストカードを使って植物体のどこに野菜ができるのかを考えさせる。 (S) トマトの実がトマトの枝(茎)についていることを理	予 想 用 イラスト カード トマト、ジャガイモ

	<p>・予想カードと比べてちがっていたところを貼り直す。</p> <p>4. 観察してわかったことを発表する。</p>	<p>解させる。</p> <p>(A) トマトの実が花が咲いた後についていることに気づかせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 花の部分をしっかり観察させ、いもができそうかを考えさせる。掘って、観察させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>S・・・トマトの実が枝になりジャガイモが土の中にできることがわかる。 【知識・理解】</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>A・・・トマトが花のあとに実になり、ジャガイモが土の中にできることがわかる。【知識・理解】</p> </div>	<p>の苗(観察園)</p> <p>スコップ等(ジャガイモを掘る道具)</p>
<p>整理</p> <p>(5分)</p>	<p>5. 本時の学習のたしかめをし、ほかの野菜についても考えるよう動機付けをする。</p> <p>(1) キュウリはどのようにして実がなるのかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> トマト、ジャガイモの付き方について確認をする。また、キュウリ、ナスについて植えている苗を見ながら考えさせる。 	<p>キュウリ、ナスの苗(観察園)</p>